

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470201110
法人名	社会福祉法人 フェローズ
事業所名	フェローズガーデン西寺尾
訪問調査日	平成25年8月5日
評価確定日	平成25年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201110	事業の開始年月日	平成17年3月1日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	社会福祉法人 フェローズ			
事業所名	フェローズガーデン西寺尾			
所在地	(221-0001)			
	横浜市神奈川区西寺尾2-34-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>閑静な住宅地にあるゆとりある建物。その中で行われる経験豊かなスタッフによる介護サービス。利用者はもとよりご家族の方にも喜んでいただけるホームづくりに努めています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成25年8月5日	評価機関 評価決定日	平成25年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①このホームは地元出身の理事長が、自己所有の敷地に、介護に対する大きなポリシーを持ち、平成17年に開所しました。開所以前は、同じ地で訪問介護事業所を展開しており、自宅でのケアが難しくなった利用者を継続してお世話することが、開所の目的の1つであると聞きしました。代表者は信念を持ったリーダーシップと、家族のような生活の双方を実現し、率先して介護に当たっています。職員は常勤比率も高く、非常勤の職員も近所の気心の知れた主婦が中心であり、利用者に対する思いも篤く、理念の「尊重、温もり、交流」を基軸として、心のこもったケアを展開しています。その後、入居希望の利用者の要望に沿って、平成20年12月に鶴見区にもグループホーム(フェローズガーデン獅子ヶ谷)を開所し、そちらも順調に実績を残しています。</p> <p>②開所して丸8年が経過し、入居者のADLは年数に準じて低下するのは止むを得ないことですが、入居者の体力等に沿ったケアに努めています。理事長は「お年寄りには体を動かすのは嫌」「楽をしたい」という考えを基本的に思い、自然に楽しくエクササイズをする工夫を実施し、ADLと相乗する気力の衰えを考慮し、体力に応じたエクササイズを取り入れて老化の防止に努めています。利用者の好きな懐かしい歌に振付、手話などを組み入れて、楽しく体を動かす工夫を毎日、折あるごとに行っています。応接には、歌の歌詞が貼ってあり、職員は大正琴やキーボードで伴奏し、歌い、楽しくエクササイズ出来るようリーダーシップを図り、新しい、刺激のあるエクササイズを全員で努めています。教育については、理事長自ら現場に入り、スタッフの一員としてOJTで身を以て覚えてもらう指導に努めています。OJTとカンファレンスにより生きた介護の教育を実践しているのが、このホームの最大の教育となっています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	フェローズガーデン西寺尾
ユニット名	もみじ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人間性を尊重し家庭的で温もりのある介護を行い、地域社会とのかかわりを大切にするグループホームを運営するため、理念として「尊重、温もり、交流」を掲げている	利用者の人間性を尊重し、家庭的で温もりのある介護を行い、地域社会とのかかわりを大切にするグループホームを運営するため、理念として「尊重、温もり、交流」の理念を掲げています。理事長、管理者は、日常の業務や職員会議などを通じて理念の実践に取り組み、現場第一のケアを実現しています。ホームの方針もスタッフが継続して働ける、働きやすい職場体制作りを基本に置いており、良い介護者が継続して勤務し、職員の異動が無いことも大きな力となっています。	今後も継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できる限り自治会や老人会の行事に参加し、地元の人々と交流を図っている	代表者が地元出身であることもあって、地元への貢献の想いは篤く意欲的です。出来る限り自治会や老人会の行事に参加し、地元の人々と交流を図っています。自治会行事であるお祭り、盆踊り、餅つき大会などに参加しています。盆踊りなどは職員がボランティアでサポートしてくれるので夜7時以降に係らず、参加ができています。職員は、ボランティアは自分も楽しめると言い、この一体感がこのホームの良さの本質です。また、利用者相互の交流、利用者との交流、ホームとご家族の交流、ユニットの1階・2階の利用者の交流と云ったそれぞれの「基本」を固め、地域とのお付き合いを広げることができた成果であると云えます。	今後も継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護のことなら何でも相談できる「介護相談」を行ない、地域に役立つよう努めている また、認知症を理解する機会をつくるよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに運営推進会議を開催し、利用者の現状や実際の取り組みを報告し、話し合いを通じて内部では気付かない点を発見することでサービスの質の確保・向上に努めている	隔月ごとの運営推進会議は、町内会会長、副会長、民生委員、地域包括支援センターの方、ご家族(3名)それにホーム関係者と云うメンバーで構成し、入居者の現状説明や実際への取り組みの報告や、話し合いを通じてサービスの質の確保・向上に努めています。プライバシーに配慮しつつ毎回、実例を交え乍ら会を進めています。メンバーからは、アドバイスやボランティア情報などを聞かせて頂き、有意義な会となっています。	今後も継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常業務を通じて市や区と連携を図り、サービスの向上に努めている	日常業務を通じて市や区と連携を図り、サービスの向上に努めています。区役所で開催される研修会には必ず出席するようにしています。地域包括支援センターとの関係も良好で、介護保険更新手続き、研修会、介護用品等のご提供、近隣の福祉関係の情報提供などに協力を頂いています。県のグループホーム連絡会の研修会にも参加しています。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束をしないケアの徹底に努めている	身体拘束の弊害について、ベッド4点柵等、具体的事例の検討を行い、正しく理解しており、更に日常的に職員会議等で身体拘束をしないケアの徹底に努めています。玄関の鍵は構造上点キーによるオートロックとなっておりますが、ユニットの入口は開放し、外に出たい方には職員が一緒に出る等、閉塞感はありません。	今後も継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止の研修を行い、虐待の防止に努めている。また、日常、職員が無意識の中で虐待が行われていないか注意をはらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で権利擁護の研修を行い、職員の意識を高めている。なお、必要性が発生した場合は即対応&活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をかけて利用者や家族に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分説明するとともに、「苦情申立窓口の設置について」をホーム内に掲示し周知を図っている	家族等に意見、要望を自由に話して頂けるよう契約時に十分説明すると共に、「苦情申立窓口の設置について」をホーム内に掲示しています。入居後には利用者の状況について、そして家族の来訪時には口頭等で充分説明しています。訪問が少ないご家族には、毎月のフェローズ通信の個人記録欄に個別に記載し、お知らせしています。特に、医療情報は必ず伝えるようにしています。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中または毎月開催している職員会議などで職員から意見・要望を聞き、運営に反映している	業務中、または毎月開催している職員会議などから職員に意見や要望を聞き、運営に反映させています。基本的には、職員の日常の意見や要望はフロアリーダーが収集し、管理者に報告しています。管理者は全体を把握できる体制が定着しています。一人ひとりの職員の個性を活かし、異なった角度から利用者の変化を把握する目を持つよう、努めています	今後も継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議における要望の把握、日常業務の中での意見集約などにより職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画に基づき職員研修を行っており、法人内外の研修に参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全職員を対象に外部で行われる「認知症介護実践研修」などに参加させている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接は必ず行い、時間を十分かけて本人から話を聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には必ずホームを見学して戴き、要望などをよく聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者の状況を十分把握し、一番好ましい介護サービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴を基本に本人の生活歴を把握し、一緒に過ごすよう努めている。また、レクリエーション活動を充実させ共に過ごしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画書の理解や家族との交流会を通じてスムーズな連携が図れるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会時間を設け、これまでの関係を継続できるように努めている	入所の申し込みがある場合は、書類だけではなく何回でもホームを見学して頂き、納得して入居して頂いています。入居者は医師の紹介、地域ケアプラザの紹介、居宅支援事業所の紹介等が多く、地域の方も多いです。公園等に散歩に行けば馴染みの風景を目にし、安心されることもあり、支援に努めています。1人暮らしの方はホームのご近所との交流などを楽しんでいます。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事、おやつの時間などの充実に努め、利用者どうしの交流を深めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要が生じた場合は適切に対応していく		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の傾聴に努め、日常会話の中から思いや意向を把握している	日頃の会話から「その人の思い」を聴きだし、表現のうまく出来ない方からは寄り添うことで「その人のサイン」を把握しています。アセスメントについては、ICFを活用したアセスメントシートを独自に作成し、活用しています。シートには、環境因子は何が良かったが分かり、個人因子では主に生活歴が分かるなど、読み方、書き方をスタッフに教育しています。沢山記載があれば生活に活気があり、白紙部分の多い人はADLが低下している等、概略も掴むことが出来るようになっていきます。	今後も継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者だけに止まらず、家族からの情報収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の閲覧や申し送りの徹底で現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の観察から課題を整理するとともに、医師の判断や家族の意見を取り入れ、職員会議で検討しながら介護計画を作成している	日常の観察(起きてから寝るまでを項目を決めて)から課題を整理すると共に、医師の判断や家族の意見を取り入れ、毎月の職員会議で個人別に検討しながら介護計画を作成しています。毎月の職員会議ではケアプランを持参し、変化を見ながらの検討がモニタリングとなっています。会議では問題点をリーダーが申し送りし記録を担当し、情報の共有を図っています。	今後も継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌への記載や申し送りの徹底によりケアを実践するとともに介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて病院への同行、処方箋の依頼や薬局への薬の受け取りを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との情報交換、消防署員立会いによる避難訓練、ボランティアによる演芸(フラダンス、腹話術など)を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医による往診を実施している 利用者の体調が変化した時は、すぐに指示をもらえる体制を確保している	地元のかかりつけ医による往診を実施しています。入居者の体調が変化した時は、直ぐに電話で指示をもらえる体制となっています。往診は各ユニット毎に月2回ずつ実施しています。先生は1ユニット毎の往診なので、毎週訪問があります。他のユニットで体調の悪い場合は相談出来るメリットがあります。看護師は同じ病院の看護師と契約し、医師との連携も良く安心できる体制にあります。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師が訪問しており、適切な受診や指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や家族と連携を図り、利用者に安心感を与えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を十分確認し、医師を含めて話し合いを行っている	ターミナルに関する書類と重度化への関する指針があり、入所に際し同意を頂いています。医療については、連携体制を取っています。実際のターミナル期になると、往診医と家族、三者で話し合い、医師から状況を説明し、病院でターミナル期を過ごすか、ホームに居るか等、十分に方向性を決めるようにしています。	今後も継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成し、全職員に配布している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に避難訓練を実施している また、災害時における入居者避難場所を決定している	消防署などにも協力頂いて、避難訓練を定期的に年2ブロック単位で実施しています。ブロック単位とは、シフトの関係で全職員の訓練を1日では行えないので毎日の訓練を1週間続けて1ブロックの訓練とし、これを年2週間実施するものです。訓練は初期消火、通報、避難に分けて実施しています。災害時の入居者避難場所は周知出来ています。備蓄については、米50Kg、水、缶詰、チョコレート、梅干し、塩等を約3日分備蓄しています。他に携帯トイレ、ガスボンベ(4台)等も準備しています。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに気を付け、個人対応がプライバシーを損ねることにならないよう努めている	入居者の一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉遣いは勿論のこと、接し方もやさしい心配りで丁寧に行われています。特に言葉かけには気を付け、個人対応がプライバシーを損ねることにならないよう努めています。	今後も継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴から本人の思いを探し出すことに努め、本人の理解度に応じた説明を行い、納得が得られるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュールを優先するのではなく、利用者のその日の状況に合わせた支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、常に職員が目を向け声かけを行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	器やサイドディッシュに気を配り、味だけでなく目も楽しめるように努めている。器と一緒に選んだり盛り付けをしたり片付けも共に行っている	器やサイドディッシュに気を配り、小さな器に色々なものを山盛りにしないよう指導し、味だけでなく見た目も楽しめるように努めています。職員と器と一緒に選んだり、盛り付けをしたり、片付けも共に行っています。食事の主食は、食材会社を活用していますが、おやつ等は手作りで、季節の物を取り入れて楽しんでもらっています。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事摂取表で確認し、利用者それぞれの健康状況に応じた支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けと見守り、介助を要する方には義歯管理まで行っている。口臭予防のため洗口液を用いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表チェックを徹底し、一人ひとりのパターンを掴んでいる 失敗した場合は清拭を行い衛生面に配慮している	排泄表チェックを徹底し、一人ひとりのパターンを知ることによって気持ちよく排泄できるよう支援しています。気持のよい排泄とは、禁止の言葉が出ない状況を作ることと指導しています。失敗後は清拭を行うと共に、本人が気にしないような声かけをするようにしています。便秘にならないよう留意し、薬のコントロールについて医師に相談出来るところまで医学的知識と、見守りの強化に職員全員で努めています。	今後も継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便状況を把握している 医師と連携しながら便秘予防に努めている レクリエーションで体を動かす機会を持っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望を尊重している 側で職員が見守り、必要な時には介助も行っている 柚子湯、菖蒲湯などで季節感を楽しんでいる	一人ひとりの希望を尊重し、入居者に適した仕方で、マンツーマンで入浴を行い、傍で職員が見守り、必要な時には介助も行うようにしています。1日3人、3日に1回を原則にしています。重度の方にはシャワー浴も併用しています。また、柚子湯、菖蒲湯などで季節感を楽しんでもらっています。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は、本人の意思としている 居室温度は、快眠が保てるようコントロールしている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表から薬の目的や副作用を知り、正確な服薬管理に努めている 経過観察にも十分努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなことや得意なことを掴み、活気ある日々が過ごせるよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣で開かれる盆踊り、公園への散歩に出かけている 自治会行事などにも積極的に参加・見学する機会を持っている	1日1回は近くの公園、二つ池公園、児童公園などへ散歩に出ています。近隣で開かれる花市や盆踊り、公園への散歩などへも出かけています。自治会行事などにも積極的に参加、見学する機会を持つようにしています。ご家族が来て車椅子で散歩に連れ出すこともあります。	今後も継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば、近隣のスーパー等へ出かけられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望にそって支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は絶えず清掃し、照明も時間に合わせている 季節感を配慮した壁掛けや小物で変化を楽しんでいる	昼間はほとんどリビングで過ごしているため、壁面にパッチワークで作った歌の歌詞を書いたものを貼り、利用者が唄いたくなったらすぐ一緒に歌えるように準備しています。（歌詞を取りに行ったり、楽器を準備したりしているとその気が萎えてしまう）歌は手話を交えて行っており、利用者が正式の手話を覚えることや、手話は自然に体操のエキササイズになっていることなど、楽しみながらADLの維持が図られています。共有部分は季節感を大切にし、絶えず清掃してホーム内は綺麗に保たれています。照明も時間に合わせて配慮しています。また、季節感を醸した壁掛けや小物で四季の変化を楽しむようにしています。	今後も継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングとリビングが広々と一体化しており、お互いじゃまにならない空間として、あるいは集う空間としている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の空間と意識できるよう使い慣れた家具や寝具を自分の思いで設置している	自分の空間と意識できるよう、使い慣れた家具や寝具を自分の思いで設置しています。ご家族共々自由にご本人の部屋をインテリアしています。居室の清潔には充分配慮しています。	今後も継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからない方には、名前だけでなくその方が判断できるマークを入口に用意している		

目 標 達 成 計 画

事業所

フェローズガーデン西寺尾

作成日

2013年8月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握として職員の傾聴	利用者の意向を把握する	業務スケジュールを優先するのではなく、傾聴に心がけ利用者の意向を把握する	年間
2	13	職員を育てる取り組みとして研修の受講機会	職員の資質向上を図る	外部研修を活用するとともに職員会議や日常の指導により職員を育成する	年間
3	2	災害時における救援体制	災害時における地域の協力	グループホームの実態を地域に理解してもらう	年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	フェローズガーデン西寺尾
ユニット名	いちよう

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人間性を尊重し家庭的で温もりのある介護を行い、地域社会とのかかわりを大切にするグループホームを運営するため、理念として「尊重、温もり、交流」を掲げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できる限り自治会や老人会の行事に参加し、地元の人々と交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護のことなら何でも相談できる「介護相談」を行ない、地域に役立つよう努めている。また、認知症を理解する機会をつくるよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに運営推進会議を開催し、利用者の現状や実際の取り組みを報告し、話し合いを通じて内部では気付かない点を発見するでサービスの質の確保・向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常業務を通じて市や区と連携を図り、サービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束をしないケアの徹底に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止の研修を行い、虐待の防止に努めている。また、日常、職員が無意識の中で虐待が行われていないか注意をはらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で権利擁護の研修を行い、職員の意識を高めている。なお、必要性が発生した場合は即対応&活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をかけて利用者や家族に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分説明するとともに、「苦情申立窓口の設置について」をホーム内に掲示し周知を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中または毎月開催している職員会議などで職員から意見・要望を聞き、運営に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議における要望の把握、日常業務中での意見集約などにより職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画に基づき職員研修を行っており、法人内外の研修に参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全職員を対象に外部で行われる「認知症介護実践研修」などに参加させている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接は必ず行い、時間を十分かけて本人から話を聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には必ずホームを見学して戴き、要望などをよく聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者の状況を十分把握し、一番好ましい介護サービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴を基本に本人の生活歴を把握し、一緒に過ごすよう努めている。また、レクリエーション活動を充実させ共に過ごしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画書の理解や家族との交流会を通じてスムーズな連携が図れるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会時間を設け、これまでの関係を継続できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事、おやつの時間などの充実に努め、利用者どうしの交流を深めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要が生じた場合は適切に対応していく		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の傾聴に努め、日常会話の中から思いや意向を把握している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者だけに止まらず、家族からの情報収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の閲覧や申し送りの徹底で現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の観察から課題を整理するとともに、医師の判断や家族の意見を取り入れ、職員会議で検討しながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌への記載や申し送りの徹底によりケアを実践するとともに介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて病院への同行、処方箋の依頼や薬局への薬の受け取りを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との情報交換、消防署員立会いによる避難訓練、ボランティアによる演芸（フラダンス、腹話術など）を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医による往診を実施している 利用者の体調が変化した時は、すぐに指示をもらえる体制を確保している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師が訪問しており、適切な受診や指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や家族と連携を図り、利用者に安心感を与えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を十分確認し、医師を含めて話し合いを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成し、全職員に配布している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に避難訓練を実施している。また、災害時における入居者避難場所を決定している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに気を付け、個人対応がプライバシーを損ねることにならないよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴から本人の思いを探し出すことに努め、本人の理解度に応じた説明を行い、納得が得られるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュールを優先するのではなく、利用者のその日の状況に合わせた支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、常に職員が目を向け声かけを行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	器やサイドディッシュに気を配り、味だけでなく目も楽しめるように努めている。器と一緒に選んだり盛り付けをしたり片付けも共に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事摂取表で確認し、利用者それぞれの健康状況に応じた支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けと見守り、介助を要する方には義歯管理まで行っている。口臭予防のため洗口液を用いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表チェックを徹底し、一人ひとりのパターンを掴んでいる。失敗した場合は清拭を行い衛生面に配慮している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便状況を把握している。医師と連携しながら便秘予防に努めている。レクリエーションで体を動かす機会を持っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望を尊重している。側で職員が見守り、必要な時には介助も行っている。柚子湯、菖蒲湯などで季節感を楽しんでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は、本人の意思としている 居室温度は、快眠が保てるようコントロールしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表から薬の目的や副作用を知り、正確な服薬管理に努めている 経過観察にも十分努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなことや得意なことを掴み、活気ある日々が過ごせるよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣で開かれる盆踊り、公園への散歩に出かけている 自治会行事などにも積極的に参加・見学する機会を持っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば、近隣のスーパー等へ出かけられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望にそって支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は絶えず清掃し、照明も時間に合わせている 季節感を配慮した壁掛けや小物で変化を楽しんでいる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングとリビングが広々と一体化しており、お互いじゃまにならない空間として、あるいは集う空間としている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の空間と意識できるよう使い慣れた家具や寝具を自分の思いで設置している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからない方には、名前だけでなくその方が判断できるマークを入口に用意している		

目 標 達 成 計 画

事業所

フェローズガーデン西寺尾

作成日

2013年8月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握として職員の傾聴	利用者の意向を把握する	業務スケジュールを優先するのではなく、傾聴に心がけ利用者の意向を把握する	年間
2	13	職員を育てる取り組みとして研修の受講機会	職員の資質向上を図る	外部研修を活用するとともに職員会議や日常の指導により職員を育成する	年間
3	2	災害時における救援体制	災害時における地域の協力	グループホームの実態を地域に理解してもらう	年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。